

## 研究紀要の掲載に寄せて

現在、教育界は、社会の急激な変化に伴い、複雑化・高度化する諸課題への適切な対応が求められています。また、平成24年度は、いじめや体罰の問題がクローズアップされ、学校教育の在り方が厳しく問われることとなりました。子どもたちの規範意識や自尊感情の低下も懸念される中、その向上に向けて様々な議論や取組が展開されています。教員が、こうした課題に対応できる専門的知識・技能を習得するため、平成24年8月の中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上対策について」では、「学び続ける教員像の確立」が打ち出され、生涯にわたる研鑽が求められています。

本センターでは、このような様々な課題やニーズに対応した研修や指導（訪問）を充実させ、静岡県教育全体を視野に入れながら、木（学校や教職員）を育て、森（教育全体）を育てることが使命であると受け止め、「授業づくり」と「人づくり」という両側面から学校現場を支えることに努めています。その基盤となるものが研究であり、研究の質こそが研修や指導（訪問）の質を規定すると捉えています。

開所以来、個人レベルの研究はもとより、学校現場や教育研究者と連携した組織としての研究を推進し、確かな分析と検証に基づいた「本センターならではの」の実践的な研究を目指してまいりました。今年度も、研修・指導（訪問）を担当する全ての室・班が研究を行い、各分野での課題の解決に向けての提案を行っております。

本紀要は、それらの研究の中から「産業教育」「特別支援教育」「キャリア教育」「図書館活用」「校内研修」の分野における研究をまとめたものです。本年度より、研究紀要の冊子としての刊行は行わず、本センターホームページ上での掲載のみとすることになりましたが、研究成果が、各学校での教育実践に役立ち、これからの時代を担う子どもたちの育成の一助となれば幸いです。

結びに、研究に際して、御協力をいただきました学校及び関係教育機関の方々に厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

静岡県総合教育センター  
所長 三ッ谷 三善